

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02534

研究課題名（和文）他者の「受諾」に向けた哲学実践：アメリカ超越主義の教育的意義をめぐる国際対話研究

研究課題名（英文）Practical philosophy towards the acknowledgment of the other: International dialogical research on American transcendentalism and its educational implications

研究代表者

齋藤 直子 (Saito, Naoko)

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：20334253

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：他者との肯定的な関係を築き直すための哲学実践に向けて19世紀アメリカ超越主義をもとに、他者と「諾」という肯定に基づく関係を結ぶ「受諾」(acknowledgment)への思考様式の転換を図った。アメリカ超越主義が、他者の受容を通じて個の単独性に向き合い相互の自己信頼を高め合う「孤立のための教育」として広義の政治教育や道徳教育で果たす現代的意義を解明した。研究期間を通じて、(1)査読付き国際学術誌および国際共著の出版、(2)アメリカ超越主義をめぐるイギリス、フィンランド、フランスの共同研究者たちとの国際ネットワーク拡充、(3)国内におけるアメリカ超越主義の研究の普及の成果をあげることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

他者の認知とその差異化に依拠した互換性に根ざす承認(recognition)の思想の系譜とそれが生み出すリベラルな教育哲学の言説の限界を超え、不均衡の中で他者を受容し肯定する「受諾」(acknowledgment)の思想への発想転換を促す新たな視座を、哲学、社会科学、教育学の領域で提言した。文学研究やアメリカ研究に閉ざされてきたアメリカ超越主義の思想の学際性、先見性に着目し、これを現代に生きる実践哲学、教育の哲学として蘇らせた。他者の受諾を通じて互いの自己信頼を高め合う「孤立のための教育」や、哲学的思考を通じて恐怖を克服するセラピーとしての哲学教育の実践的な社会的意義を示した。

研究成果の概要（英文）：Towards philosophical practice to rebuild positive relationships with others, this research, based upon American transcendentalism, has shifted the mode of thinking towards acknowledgment in relation to others. It has clarified the contemporary significance of American transcendentalism for political education and moral education, centering on the concept of "education for isolation" -- one that enables us to confront the singularity of the individual in accepting others. Throughout the research period, (1) many peer-reviewed international journals and co-authored books have been published, (2) international networks have been developed with collaborative researchers in the UK, Finland and France, and (3) the value of American transcendentalism has been promoted in Japan as well.

研究分野：アメリカ哲学、教育哲学

キーワード：他者の受諾 アメリカ超越主義 ソロー エマソン フラー 哲学実践 国際対話 孤立のための教育

## 1. 研究開始当初の背景

アメリカの哲学者ジョン・デューイは20世紀の初め、「国家の相互理解」(1921)と題する論考の中で、大戦の狭間にあって国家間、文化間の差異、ひいては敵からすらも「友人」として学び合うという、生き方としての民主主義思想の思想を表明した(Dewey 1988)。この信頼と友情に根ざす相互承認の思想は、今日の世界において、他者への「恐怖」によって根幹から揺らいでいる。恐怖は、移民の排斥に見られる異質性の排除や、外国人への恐怖症、ヘイトクライム、ひいては国家間の政治的対立などの根底にある政治的感情として、日常生活の中に見えない敵を作り出す。ヌスバウムは今日の民主主義において恐怖は「絶対君主的な感情」であり、防御的な自己耽溺と「不信」の風潮を生み出すと述べる(Nussbaum 2018)。ムーアはドキュメンタリー映画『華氏119』において恐怖と不信が生み出すアメリカ民主主義の衰退に警鐘を鳴らす(Moore 2018)。恐怖を超えて他者との信頼関係を築くことは、達成され続ける民主主義の心理的—実存的—政治的課題である(Cavell 2010)。

この背景の下で、恐怖の負の連鎖を断ち切り、他者と「諾」という肯定に基づく相互信頼の関係をいかにして社会に築くことができるかという哲学的—教育的問いが生じる。開放性や共感、関与を連呼するだけでは崩せないほど恐怖によって凝固した殻を破り、人を変え、人が変わることを促せるような変容力を備えた哲学の実践力が今ほど求められる時代はない。しかし現状では、他者の差異化から出発する承認の政治学のアイデンティティ・ポリティックス(テイラー 1996)やそれに依拠したリベラルな教育哲学の思弁的哲学の言説(Brighouse 2000; Callan 2004)は、人びとの生き様を根底から変容させる実践力をもちえない。他者があるがままに肯定し受容する中で、互いの自己信頼を高め合えるような民主主義社会の創設に寄与しうる教育はいかなるものであるべきか。これが本研究の核心にある学術的問いである。

## 2. 研究の目的

本申請研究では、他者との肯定的な関係を築き直すための哲学実践に向けて、哲学を日常に連れ戻すアメリカ超越主義の現代的意義を解明する。エマソン、ソロー、フーラーを中心とした19世紀半ばに最盛をきわめたアメリカ超越主義は、人類復興のための文学、宗教、政治を巻き込む学際的でコスモポリタンな思想運動であり(Buell 1996)、奴隷制反対、反戦、フェミニズムを標榜する生き方としての民主主義の運動でもある。その思想の先見性はポスト構造主義や日常言語哲学、フェミニズム研究との接点に示され、現代の文脈で再評価されている(Cavell 1979; Matteson 2012; スタンディッシュ 2020)。本研究では、このアメリカ超越主義をもとに、従来「承認(recognition)の政治学」の限界を超えて、他者と「諾」という肯定に基づく相互信頼の関係を結び直すための「受諾」(acknowledgment)の思想への抜本的な思考様式の転換を図ることを目指す。アメリカ超越主義をめぐる国際的な哲学対話を通じ、アメリカ超越主義が、他者を肯定的に受容する中で個の単独性に向き合い互いの自己信頼を高め合う「孤立のための教育」として、広義の政治教育や道徳教育で果たす哲学実践の現代的意義を明らかにする。

## 3. 研究の方法

他者の「受諾」に向けた哲学実践に向け、アメリカ超越主義をめぐるアメリカ、フィンランド、イギリス、フランスを中心とする欧米の研究者との国際対話を通じ、3年間(2020-2022)のプロジェクトを遂行する。各フェーズの研究成果を段階的に発展させてゆく。第一フェーズでは、承認の思想系譜の批判的検討、第二フェーズでは、承認の政治学を超えるものとしてアメリカ超越主義の哲学的考察、第三フェーズでは「承諾」への思想転換としてアメリカ超越主義の現代的意義の解明、最終フェーズでは、他者の受諾に向けた哲学実践としてアメリカ超越主義の教育的意義の解明を行う。

## 4. 研究成果

### (1) 学術的成果

エマソン、ソロー、フーラーのアメリカ超越主義が「受諾」の思想としてもつ現代思想的意義を解明し、「孤立のための教育」として広義の政治教育や道徳教育で果たす哲学実践としての意義を明らかにした。とりわけ、下記が個別の学術的成果として挙げられる。

(i)承認(recognition)から受諾(acknowledgment)への発想転換：他者の認知とその差異化に依拠した

互換性に根ざす承認の思想の系譜とそれが生み出すリベラルな教育哲学の言説の限界を超え、不均衡の中で他者を受容し肯定する「受諾」の思想への発想転換を促す新たな視座を提示した。(Saito 2022b; Saito 2023a; 齋藤・Standish2021)

(ii) アメリカ超越主義を現代思想に架橋：文学研究やアメリカ研究に閉ざされてきたアメリカ超越主義の思想の学際性、先見性に着目し、これを現代に生きる実践哲学、教育の哲学として蘇らせた。通常自己超越思想としてとらえられるアメリカ超越主義思想を、他者を受諾する思想として再生させ、現代哲学の新たな地平を拓いた。(Saito 2022a; Saito 2022c; Saito 2023b)

(iii) 世の中を変える哲学実践研究：哲学を日常生活に連れ戻す哲学実践のあり方を、他者の受諾を通じて互いの自己信頼を高め合う「孤立のための教育」や、哲学的思考を通じて恐怖を克服するセラピーとしての哲学教育という具体的視座から解明した。(Saito and Akiyama 2021; Saito 2023c; Saito 2022d)

(iv) 双方向的な国際哲学対話研究：アメリカ超越主義の研究を、これまで確立してきた欧米・アジアの国際的哲学対話のネットワークを深化させ拡大させながら行う点が、日本の思想研究の国際化を推進する波及効果をもつ。とりわけ、西洋から東洋への一方向的な思想と言語の移動と、それがもたらす単一言語主義に抗うべく、双方向的な対話の様式として「翻訳としての哲学」を研究手法として実践し開発した。(齋藤 2022)

## (2) 国際的ネットワーク形成と国際共著の出版

UCL 教育研究所 (イギリス)、パリ第一大学 (フランス)、ヘルシンキ大学 (フィンランド) との国際連携を通じてアメリカ超越主義の研究をめぐるネットワークが深化発展した。

国際学術誌が数多く出版された。またイギリス教育哲学会、アメリカ教育哲学会、アメリカ哲学促進学会等、国際会議で、本プロジェクトの成果を国際発信した。主要成果は下記の通りである。

齋藤直子、ポール・スタンディッシュ「正しく目を閉じること：ウィトゲンシュタインとおとなの教育」『現代思想』「ウィトゲンシュタイン「論理哲学論考」100年」Vol. 49-16 (1月臨時増刊号) (青土社 2021): pp. 234-250.

Naoko Saito and Tomohiro Akyama, “Distance Education and Pursuit of the Common at the Time of COVID-19: Ontology of Separation,” *Philosophy of Education* 2021 (2021).

Naoko Saito, “The Twilight of the University,” in *The Promise of the University: Reclaiming Humanity, Humility, and Hope*, Aine Mahon (Ed.) (Springer, 2022a): 195-204

Naoko Saito, “Learning from Correct Blindness: James in Dialogue with Cavell,” in *The Jamesian Mind*, Sarin Marchetti (Ed.) (Routledge, 2022b): pp. 447-458. (2022b)

Naoko Saito, “Philosophy as Autobiography: From Must We Mean What We Say? to Little Did I Know,” in *Cavell’s Must We Mean What We Say? at 50*, eds. Greg Chase, Juliet Floyd, and Sandra Laugier (Eds) (Cambridge University Press, March (2022c)): 151-166.

Naoko Saito, Liberal Education, “Beautiful Knowledge and Rene V. Arcilla’s Whim Wenders’s Road Movie Philosophy,” *Journal of Philosophy of Education* 55.4-5 (2022d): 747-753

齋藤直子「翻訳としての哲学(Philosophy as Translation)」特集「世界哲学における翻訳の問題：翻訳とは誤読の温床か、それとも新しい思想の芽生えか」『未来哲学』第5号 (2022): 90-119

Naoko Saito, “Bridging Gender Divides: Towards Transcendentalist Feminism,” *Educational Theory*, Vol. 76, No. 6 (02 Feb, 2023a): 1-14.

Naoko Saito, “Meritocracy and perfectionism: Towards a liberal education for democracy,” *Philosophy of Education*, Vol. 79-1 (2023b): 138-151.

Naoko Saito, “Democracy as a Way of Life and An-archic Perfectionism: Rereading *Conditions Handsome and Unhandsome*,” in *Understanding Cavell, Understanding Modernism*, Paola Marrati (Ed.) (Bloomsbury Press, 2023c)–

国際会議での主たる発表は以下の通りである。

Naoko Saito, "Mutual Academic Understanding? Philosophy, Education and Translation," at the Annual Meeting of the Philosophy of Education Society of Great Britain (Sunday, September 5, 2021, Online)

Naoko Saito, "Thoreau's holism and uncommon school," in *"Fifty Years of the Senses of Walden: Revisiting Cavell, Revisiting Thoreau"* (May 28, 2022, 2022 Conference of the Association of Philosophy and Literature)

Naoko Saito, "What Does It Mean to See a Person as a Whole: Emersonian Moral Perfectionism and Anti-Foundationalist Holism" (International Conference, "Emerson and Perfectionism Today," May 14, 2022, online [University Paris 1 Panthéon-Sorbonne]) (招待講演)

Naoko Saito gave a talk on her book, *American Philosophy in Translation* (2019). (May 4, 2022, online) *Séminaire « Philosophe en Amérique »* ("Philosophy in America" Workshop, organized by Léa Boman (Université Paris 1 Panthéon-Sorbonne) and Baptiste Cornardeau (Université Paris 1 Panthéon-Sorbonne/ The University of Chicago)) (招待講演)

齋藤直子「翻訳としての哲学 Philosophy as Translation」(未来哲学研究所第5回シンポジウム「世界哲学における翻訳の問題」(於：東京大学駒場キャンパス+オンライン))(招待講演)

Naoko Saito, "Thinking and Writing between Two Languages: Philosophy as Translation," Pre-conference at the annual meeting of the Philosophy of Education Society of Great Britain (March 31, 2023, New College, Oxford).

Naoko Saito, "Meritocracy and Perfectionism: Towards a liberal education for democracy," at the 79<sup>th</sup> Annual Meeting of Philosophy of Education Society (March 4, 2023, Palmer House Hilton, Chicago, Illinois, USA).

Naoko Saito, "What is Family? Human bonds beyond care" Beijing Forum: The Harmony of Civilizations and Prosperity for All--Inheritance and Mutual Learning (November 5, 2023) (Invited talk) (online)

Naoko Saito, "Rethinking the idea of the whole person in education," London Branch meeting of Philosophy of Education Society of the Great Britain (December 10, 2023)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 6件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 76.6
2. 論文標題 Bridging Gender Divides: Towards Transcendentalist Feminism	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Educational Theory	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/edth.12559 <a href="https://doi.org/10.1111/edth.12559">https://doi.org/10.1111/edth.12559</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 79.1
2. 論文標題 Meritocracy and Perfectionism: Towards a liberal education for democracy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Philosophy of Education	6. 最初と最後の頁 138-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 齋藤直子	4. 巻 5
2. 論文標題 「翻訳としての哲学(Philosophy as Translation)」特集「世界哲学における翻訳の問題：翻訳とは誤読の温床か、それとも新しい思想の芽生えか」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 未来哲学	6. 最初と最後の頁 90-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤直子	4. 巻 31
2. 論文標題 デューイの科学観に基づく大学教育への提言	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近代教育フォーラム	6. 最初と最後の頁 51-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 23
2. 論文標題 Review of Rene V. Arcilla's Wim Wenders 's Road Movie Philosophy: Education Without Learning,"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in Philosophy and Education	6. 最初と最後の頁 369-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11217-022-09819-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Naoko Saito	4. 巻 55.4-5
2. 論文標題 Liberal Education, Beautiful Knowledge and Rene V. Arcilla 's Wim Wenders 's Road Movie Philosophy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Philosophy of Education	6. 最初と最後の頁 747-753
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Naoko Saito and Tomohiro Akiyama	4. 巻 77.2
2. 論文標題 Distance Education and Pursuit of the Common at the Time of COVID-19: Ontology of Separation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Philosophy of Educaiton	6. 最初と最後の頁 22-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.47925/77.2.022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 齋藤直子、ポール・スタンディッシュ	4. 巻 49-16
2. 論文標題 正しく目を閉じること：ウィトゲンシュタインとおとなの教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 234-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 齋藤直子	4. 巻 124
2. 論文標題 「開かれた教育哲学に向けて」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 208-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Thinking and Writing between Two Languages: Philosophy as Translation
3. 学会等名 Philosophy of Education Society of Great Britain (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Meritocracy and Perfectionism: Towards a Liberal Education for Democracy,
3. 学会等名 Philosophy of Education Society (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Rethinking the idea of the Whole Person in Education
3. 学会等名 Philosophy of Education Society of Great Britain (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤直子
2. 発表標題 翻訳としての哲学 Philosophy as Translation
3. 学会等名 未来哲学研究所 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Thoreau's Holism and Uncommon School
3. 学会等名 Association of Philosophy and Literature (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 What Does It Mean to See a Person as a Whole: Emersonian Moral Perfectionism and Anti-Foundationalist Holism
3. 学会等名 International Conference, "Emerson and Perfectionism Today," University Paris 1 Pantheon-Sorbonne (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 American Philosophy in Translation
3. 学会等名 "Philosophy in America" Workshop, University Paris 1 Pantheon-Sorbonne (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 齋藤直子
2. 発表標題 デューイの科学観に基づく大学教育への提言
3. 学会等名 教育思想史学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naoko Saito
2. 発表標題 Mutual Academic Understanding? Philosophy, Education and Translation,
3. 学会等名 Philosophy of Education Society of Great Britain (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naoko Saito and Tomohiro Akiyama
2. 発表標題 Distance Education and Pursuit of the Common at the Time of COVID-19: Ontology of Separation
3. 学会等名 Annual Meeting of Philosophy of Education Society (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Naoko Saito	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Bloomsbury Press	5. 総ページ数 14
3. 書名 Democracy as a Way of Life and An-archic Perfectionism: Rereading Conditions Handsome and Unhandsome," in Understanding Cavell, Understanding Modernism	

1. 著者名 Naoko Saito	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 16
3. 書名 "Philosophy as Autobiography: From Must We Mean What We Say? to Little Did I Know," in Cavell's Must We Mean What We Say? at 50, eds. Greg Chase, Juliet Floyd, and Sandra Laugier (Eds)	

1. 著者名 Naoko Saito	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 12
3. 書名 "Learning from Correct Blindness: James in Dialogue with Cavell," in The Jamesian Mind, Sarin Marchetti (Ed.)	

1. 著者名 Naoko Saito	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 10
3. 書名 "The Twilight of the University" in The Promise of the University: Reclaiming Humanity, Humility, and Hope, Aine Mahon (ed)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Naoko Saito's Website  <a href="https://nsaito.educ.kyoto-u.ac.jp/">https://nsaito.educ.kyoto-u.ac.jp/</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------